



**困ったときは!** ひび割れを防ぐ**高柔軟性** / **どんな下地でも強力接着**

# 弾性マルチプライマー

〈カチオン性粉末樹脂配合〉ポリマーセメント系万能下塗り材

## 施工要領書

【改定】2020年12月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

**Best Walls, Best Life**

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

## 1. 使用材料および調合

### 【 使用材料 】

製品名	適用部位	適用仕上材	標準塗り厚	塗り面積
弾性マルチフィラー	内・外壁 内・外床 天井	仕上塗材全般 (漆喰、セメント系など)	1～3mm	約 4.3 m <sup>2</sup> /袋 (1mm 厚の場合)

製品名	成分	用途
NP シーラック	エチレン酢酸ビニル系 エマルジョン	吸水調整材 JIS A 6203 規格適合品

使用材料	荷姿	用途
ウルトラナノ浸透プライマー	14kg プラ缶 または 4kg ポリ缶	浸透型表面強化剤 兼 アク止め剤

製品名	荷姿	用途
耐アルカリガラスネット (当社製)	1 ロール 50m 巻(幅 1m)	補強用ネット

### 【 調合 / 弾性マルチフィラー 】

製品名	荷姿	清水
弾性マルチフィラー	粉体 5kg/袋 (4 袋/セット)	1.1 ～1.2 ℓ

### 【 調合 / NP シーラック ※5 倍希釈液 】

製品名	荷姿	原液	清水
NP シーラック	18 kg ペール缶	1	4 (72 ℓ)

## 2. 適用下地

施工できる下地	施工できない下地
モルタル、コンクリート、ALC、PC 板、ブロック、スレート板 ケイ酸カルシウム板、石膏プラスターボード、各種合板、旧タイル面 断熱ボード、壁紙(ビニールクロス)、鉄板、FRP(不飽和ポリエステル樹脂) 旧仕上面(樹脂系塗材、水系塗料、溶剤系塗料、アクリルリシン、セメント リシン、漆喰 など)、タイル用接着剤の残着面	プラスチック類 シリコン系塗膜面 フッ素系塗膜面 アルミニウム

### 3. 施工フローおよび施工要領

#### 3-1. ジョイント処理がない場合

ジョイント処理がない場合(下地の例；モルタル、コンクリート、壁紙(ビニールクロス)、旧仕上面など)の施工フローを図1に示す。

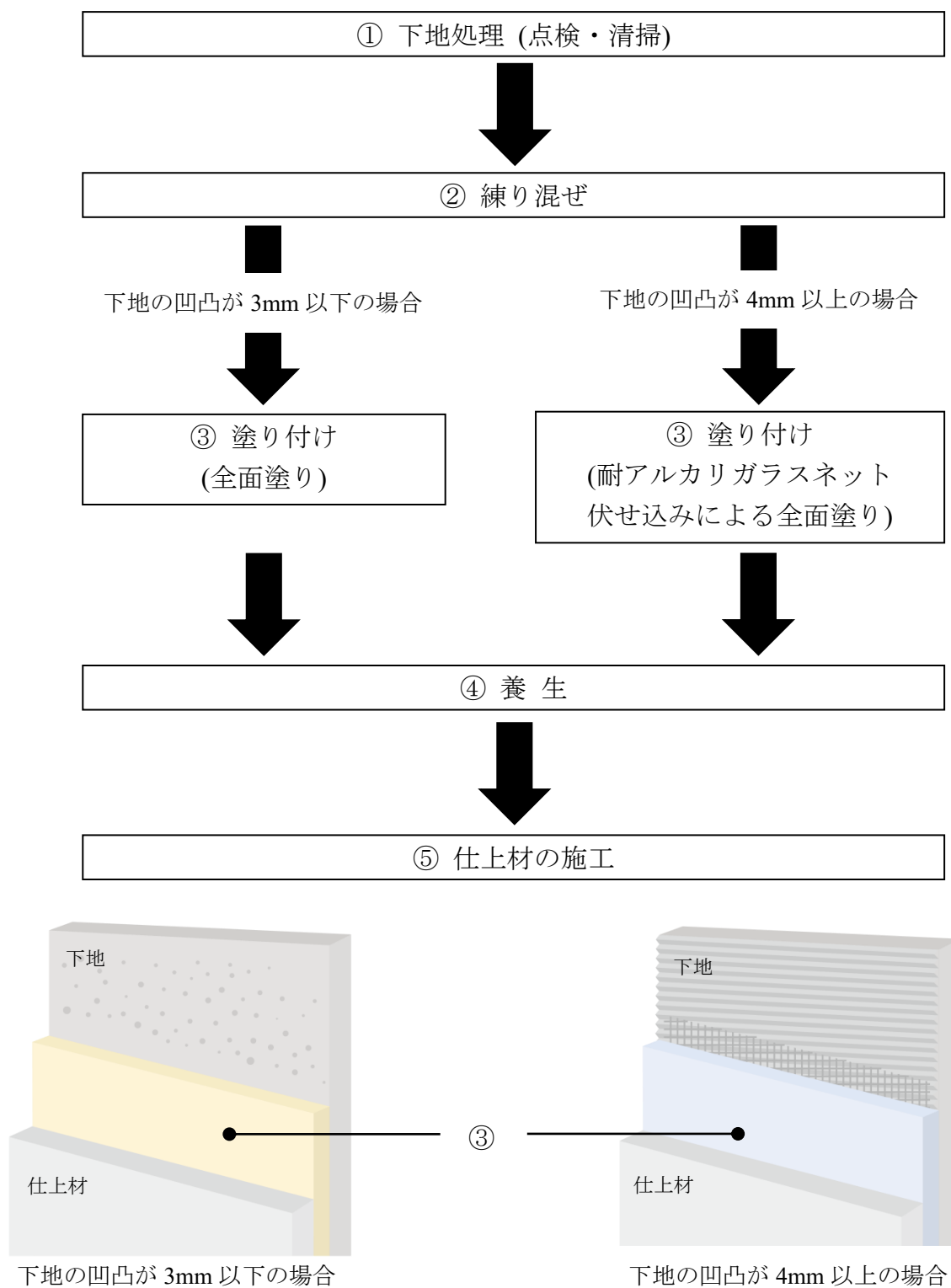


図1 ジョイント処理がない場合の施工フローおよび構成図

#### ① 下地処理(点検・清掃)

脆弱部、レイトランス、汚れや油分を入念に除去し、健全な下地状態としてください。下地の吸水が激しい場合は、事前に NP シーラックの 5 倍液を塗布してください。また、旧仕上面や壁紙については、浮き等がないことを確認してください。

※ 下地が鉄板または FRP(不飽和ポリエステル樹脂)の場合は、事前にアセトンなどによる脱脂を行ってください。

※ モルタルやコンクリート面で段差や不陸がある場合は、事前に付け送りを行ってください。その場合は、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布してください。次工程までの工程間隔は、塗布した NP シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させてください。

#### ② 練り混ぜ

弾性マルチフィラーに所定量の清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。

#### ③ 塗り付け(全面塗り)

コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けた後、追っかけで所定の塗り厚に塗り付けてください。

※ 弾性マルチフィラーの上に溶剤系シーラーや溶剤系仕上材を施工する場合は、塗り厚 2mm 以上を確保してください。

※ 下地の凹凸(旧仕上げ面のパターンなど)が 4mm 以上の場合は、耐アルカリガラスネットを伏せ込んでください。

弾性マルチフィラーを練り混ぜ下地に塗り付けた後、耐アルカリガラスネットを伏せ込んで塗り付け面を平滑にしてください。

#### ④ 養生

弾性マルチフィラー施工後、通風や直射日光による施工面の急激な乾燥を防ぐため、必要に応じて、屋内は開口部の閉鎖、屋外はシート掛けなどの養生を行ってください。

### 3-2. ジョイント処理がある場合

#### 3-2-1. 石膏プラスターボード下地の場合

石膏プラスターボード下地に適用する施工フローを図2に示す。

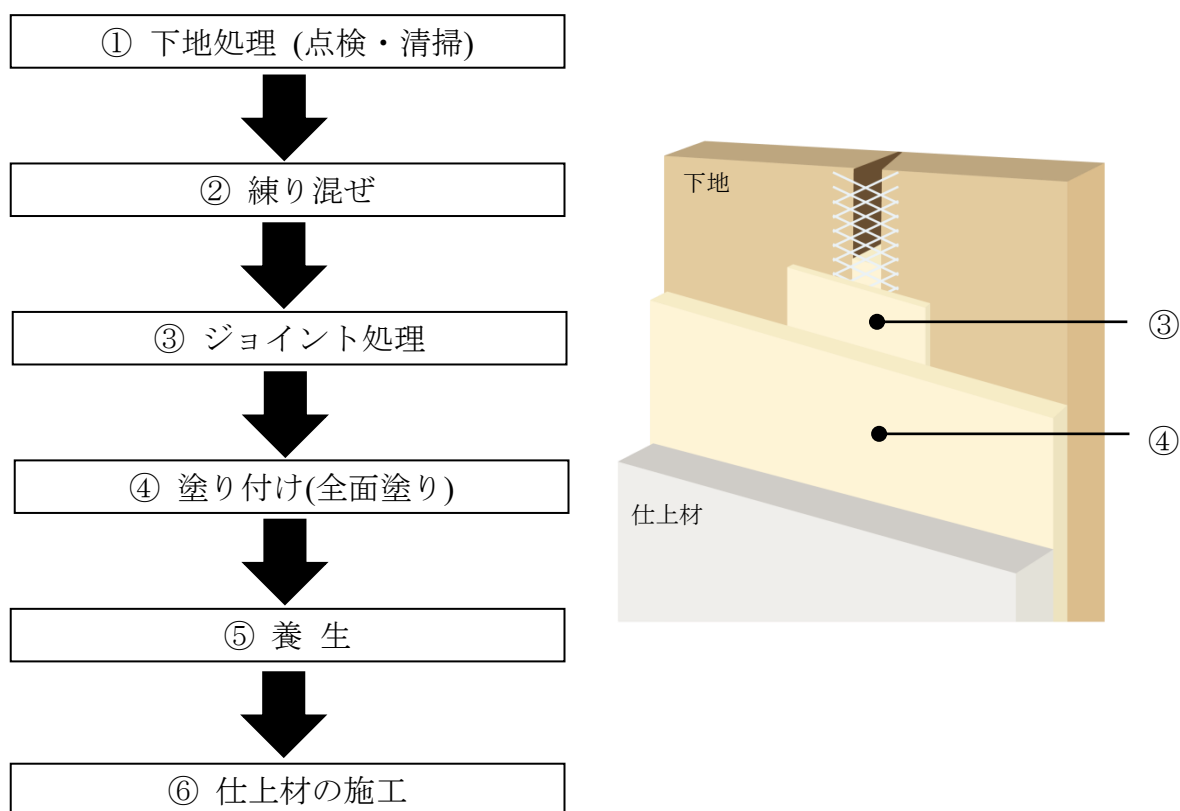


図2 石膏プラスターボード下地の場合の施工フローおよび構成図

#### ① 下地処理(点検・清掃)

下地面を清掃し、汚れや油分を入念に除去し、健全な下地状態としてください。

#### ② 練り混ぜ

弾性マルチフィラーに所定量の清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて3分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期40分、冬期60分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。

#### ③ ジョイント処理

石膏プラスターボードのジョイント部に弾性マルチフィラーをしっかりと埋め込んだ後、ファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。また、石膏プラスターボードの釘頭にも弾性マルチフィラーをこすり付けるように塗り付けてください。

※ 石膏プラスターボードの種類がスクエアエッジボードである場合は、ジョイント部への埋め込みは不要です。ボードのジョイント部に直接ファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。

#### ④ 塗り付け(全面塗り)

ジョイント処理後、追っかけで全面塗りが可能です。  
コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けた後、追っかけで所定の塗り厚に塗り付けてください。

※ 弾性マルチフィラーの上に溶剤系シーラーや溶剤系仕上材を施工する場合は、塗り厚 2mm 以上を確保してください。

#### ⑤ 養生

弾性マルチフィラー施工後、通風や直射日光による施工面の急激な乾燥を防ぐため、必要に応じて、開口部の閉鎖などの処置を行ってください。

### 3-2-2. 合板下地の場合

合板下地に適用する施工フローを図3に示す。

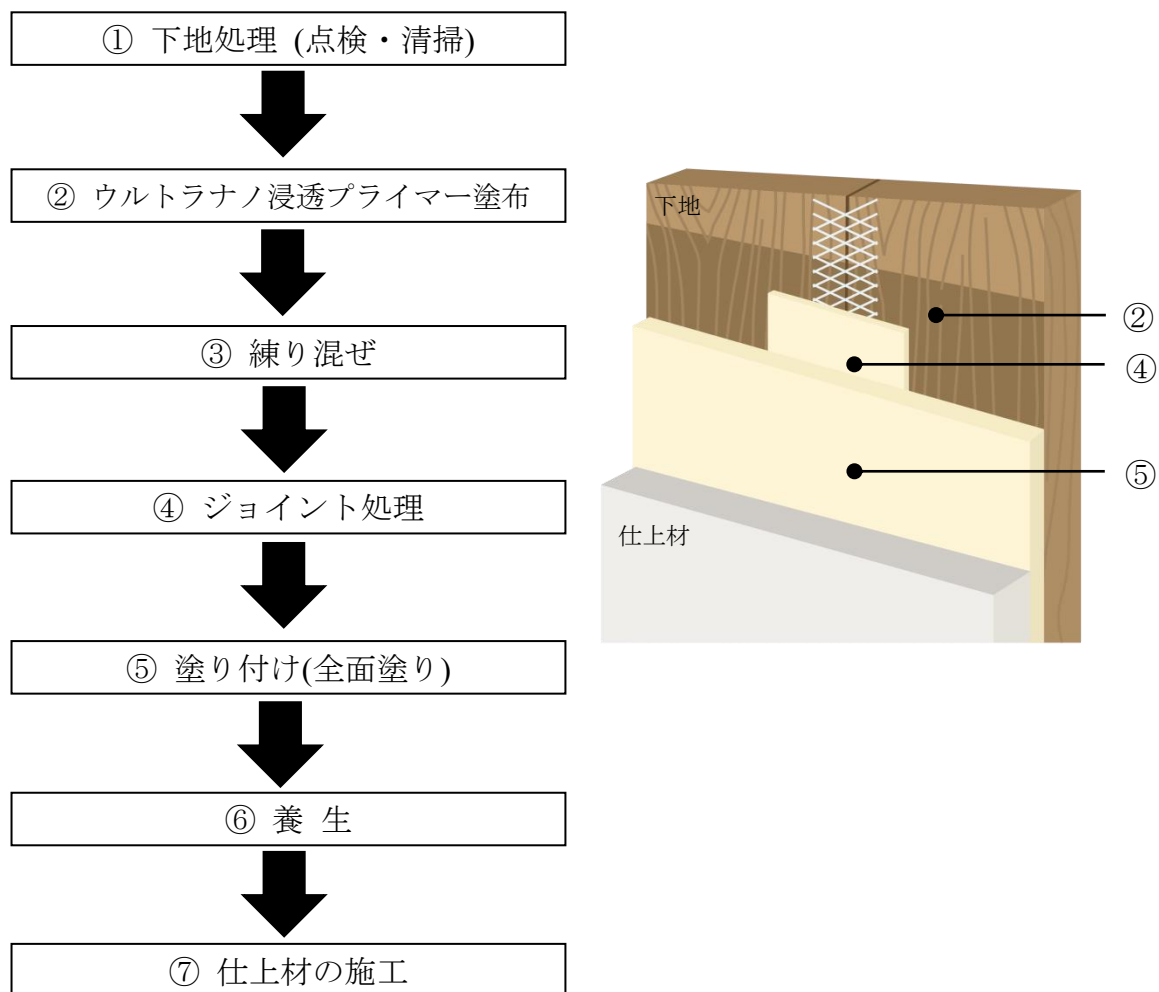


図3 合板下地の場合の施工フローおよび構成図

#### ① 下地処理(点検・清掃)

下地面を清掃し、汚れや油分を入念に除去し、健全な下地状態としてください。

#### ② ウルトラナノ浸透プライマー塗布

ウルトラナノ浸透プライマーを原液のまま刷毛やローラー等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

※アク止めを目的とする場合は、必ず2回塗布して下さい。(合板の種類によっては3回塗布が必要な場合があります。)

#### ③ 練り混ぜ

弾性マルチフィラーに所定量の清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて3分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期40分、冬期60分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。

#### ④ ジョイント処理

合板のジョイント部にファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。また、合板の釘頭にも弾性マルチフィラーをこすり付けるように塗り付けてください。

#### ⑤ 塗り付け(全面塗り)

ジョイント処理後、追っかけで全面塗りが可能です。

コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けた後、追っかけで所定の塗り厚に塗り付けてください。

※ 弾性マルチフィラーの上に溶剤系シーラーや溶剤系仕上材を施工する場合は、塗り厚2mm以上を確保してください。

#### ⑥ 養生

弾性マルチフィラー施工後、通風や直射日光による施工面の急激な乾燥を防ぐため、必要に応じて、開口部の閉鎖などの処置を行ってください。

### 3-2-3. ケイ酸カルシウム板下地の場合

ケイ酸カルシウム板下地に適用する施工フローを図4に示す。

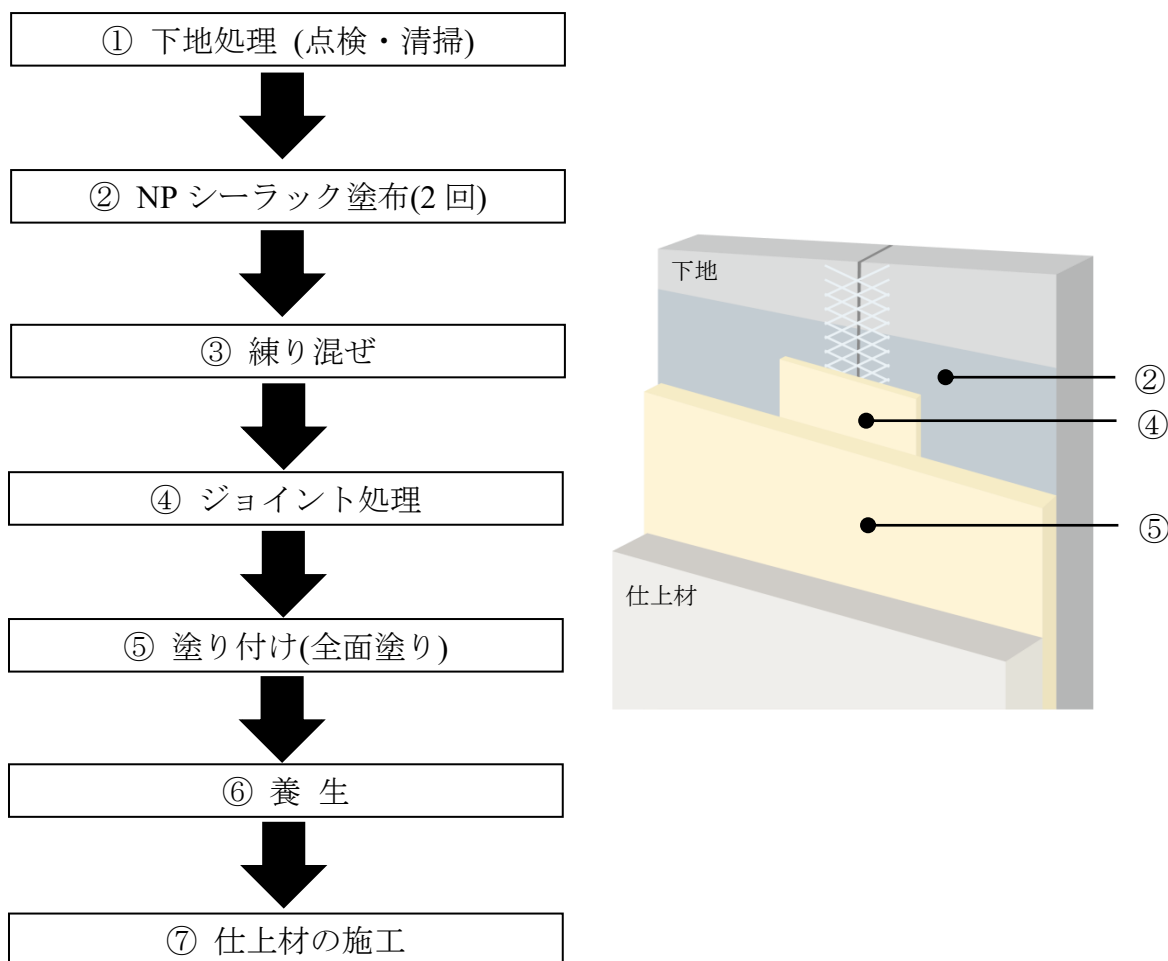


図4 ケイ酸カルシウム板下地の場合の施工フローおよび構成図

#### ① 下地処理(点検・清掃)

下地面を清掃し、汚れや油分を入念に除去し、健全な下地状態としてください。

#### ② NPシーラック塗布

下地面全面に NP シーラック 5 倍液を刷毛等でムラなく塗布してください。乾燥後(1 回目の塗布から 1~2 時間後を目安)、さらに NP シーラック 5 倍液を刷毛等でムラなく塗布してください。

#### ③ 練り混ぜ

弾性マルチフィラーに所定量の清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。



#### ④ ジョイント処理

ケイ酸カルシウム板のジョイント部にファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。

#### ⑤ 塗り付け(全面塗り)

ジョイント処理後、追っかけで全面塗りが可能です。コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けた後、追っかけで所定の塗り厚に塗り付けてください。

※ 弾性マルチフィラーの上に溶剤系シーラーや溶剤系仕上材を施工する場合は、塗り厚 2mm 以上を確保してください。

#### ⑥ 養生

弾性マルチフィラー施工後、通風や直射日光による施工面の急激な乾燥を防ぐため、必要に応じて、屋内は開口部の閉鎖、屋外はシート掛けなどの養生を行ってください。

3-2-4. 弾性マルチフィラーでジョイント処理のみを行いマルチベースで下塗りを行う場合  
施工フローを図5に示す。

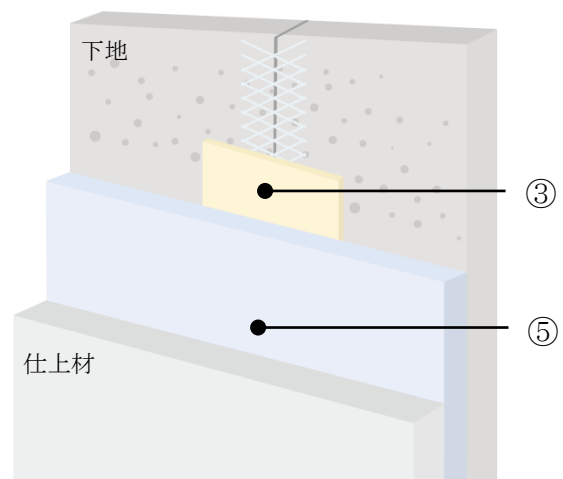
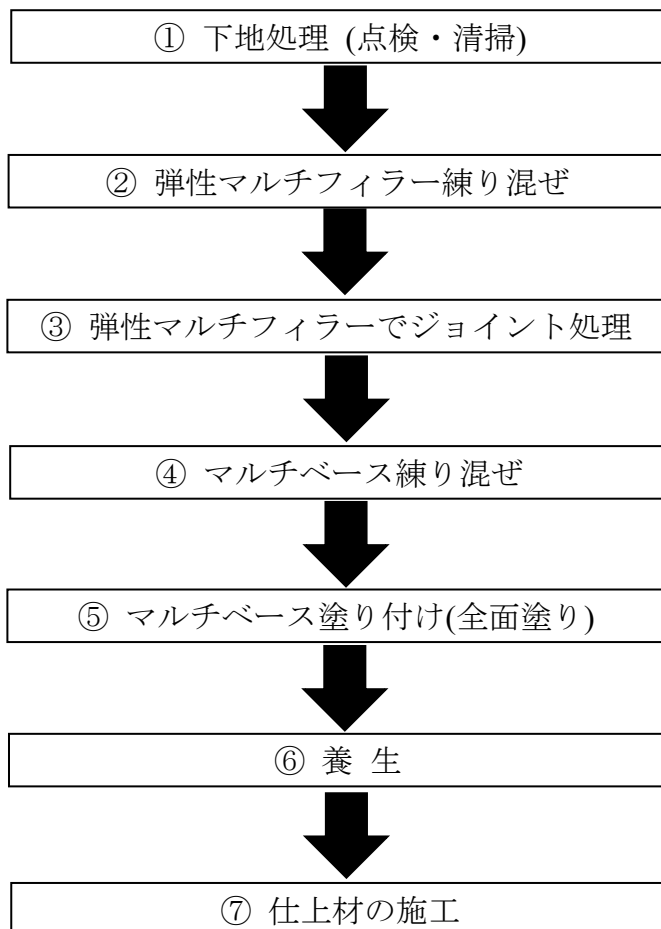


図5 弾性マルチフィラーでジョイント処理のみを行う場合の施工フローおよび構成図

### ① 下地処理(点検・清掃)

下地面を清掃し、汚れや油分を入念に除去し、健全な下地状態としてください。

※ 下地が合板の場合ウルトラナノ浸透プライマーを塗布してください。

下地がケイ酸カルシウム板の場合はNPシーラック 5倍液を2回塗布してください。

### ② 練り混ぜ

弾性マルチフィラーに所定量の清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて3分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期40分、冬期60分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。

### ③ ジョイント処理

ジョイント部にファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。また、釘頭がある場合は弾性マルチフィラーをこすり付けるように塗り付けてください。

※ 下地が石膏プラスターボード(ベベルエッジ)の場合は、ジョイント部に弾性マルチフィラーをしっかりと埋め込んだ後、ファイバーテープを貼り付けて上から弾性マルチフィラーで伏せ込んでください。

※ 次工程までの養生期間は24時間としてください。

### ④ マルチベース練り混ぜ

マルチベース1袋(20kg入り)に7.5lの清水を混入し、ハンドミキサー等を用いて3分以上均一に練り混ぜてください。

### ⑤ マルチベース塗り付け(全面塗り)

マルチベースをコテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けた後、追っかけで所定の塗り厚に塗り付けてください。

### ⑥ 養生

マルチベース塗り付けの翌日以降(寒冷期は3日以上)、仕上げ塗りを行ってください。

※ マルチベースの詳細な施工方法については、製品リーフレットをご確認ください。

#### 4. 仕上材について

##### 4-1. 適用仕上材

弾性マルチフィラーの上に施工ができる仕上材の一例を表1に示す。

表1 適用仕上材一覧

仕上材の種類	当社製品
漆喰全般	漆喰くるむ内、漆喰くるむ外、カルヌーヴォ など
セメント系仕上材全般	RC ウォール、かきりしん など
水性・油性塗料	(施工方法等は使用する製品の施工仕様に従ってください)
水性・溶剤系塗床材	
合成樹脂エマルジョン系塗材	
吹付け仕上げ(リシン吹きなど)	
タイル仕上げ	

※ 厚みが薄い(概ね1mm未満)仕上材や塗料を施工する場合、弾性マルチフィラー表面の凹凸が目立つ可能性があります。その場合は、必要に応じて当社下塗り材(NP-α、マルチベース、ボードプラスターF)または下地調整材(NP ウスヌリ、NP ハイパーなど)で下地調整を行ってから仕上材を施工してください。弾性マルチフィラーの養生期間は、下記表2を目安にしてください。

##### 4-2. 弾性マルチフィラーの養生期間について

弾性マルチフィラー塗り付けから仕上材施工までの工程間隔は養生温度によって変わります。表2を目安にして仕上材を施工してください。

表2 弾性マルチフィラーの養生期間の目安

仕上材の種類	環境温度		
	20~35℃	10~20℃	3~10℃
水性仕上材	8時間以上	18時間以上	24時間以上
溶剤系仕上材 (溶剤系シーラー)	24時間以上		

## 施工上の注意点

- 気温が 3℃以下および 35℃以上になる場合には、施工を行わないでください。
- 早期乾燥の恐れのある強い日射しや強風の場合は、シート養生や散水養生を実施してください。
- 弾性マルチフィラーは既調合品であり、現場にて砂、セメント、薬品類などを混入しないでください。
- 混水量は守ってください。混水の過多・過少により、不具合が発生する場合があります。
- 弾性マルチフィラーのジョイント処理のみで仕上げ材を施工した場合、色ムラなどが発生しジョイント部が目立つ恐れがあります。ジョイント処理後は必ず全面塗りを行ってください。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から **12ヶ月以上**のものは使用しないでください。
- 湿気を避けて保管してください。特に冬期は結露に注意してください。



## 日本プラスター株式会社

本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2  
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4  
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048

西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170  
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032